

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE



社会福祉法人

小羊学園

住所 〒433-8105
静岡県浜松市中央区三方原町2709-12

電話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲松 義人

印刷所 アド・アール株式会社



2024年3月1日

第450号

今号のMENU

1 P...

理事長巻頭言

2 P-3 P...

特集

入居者の地域生活を考える実践

4 P-5 P...

年末年始イベント
能登半島地震支援活動
障害のある人にやさしい
外出スポット

6 P...

寄贈のご報告
リレートーク
支える会報告 他



週末定期的にグループホーム温心寮に来てくださる福祉ネイリストのマキさん！
入居者の心が華やぎます♡

私が社会福祉に関わりはじめた頃「共に生きる」というキーワードで紹介される実践が紹介された本をよく見かけたように思う。時代が代わり、今、福祉の実践に問われるのは「よい支援」ということではないかと感じる。福祉で働く職員は、支援者であり、支援を受けながら生活する人は、福祉サービスの利用者である。職員たちが、支援の対象である人たちの生活を少しでもいいものにしようと努力するのは昔も今もそれほど変わらないのかも知れない。

しかし、職員は、勤務時間が終わると、職場を離れ、自分で自分の時間を過ごす。施設に入所している人は、施設の中で生活するしかない。だから入所施設は閉鎖的でよくない。施設から出て、地域のグループホームを利用することを薦められる。しかし、グループホームでも、職員は勤務時間内で可能な範囲の支援はしてくれるが、その範囲を超えることはない。

支援が必要な人が一人の市民として生活していくためには、職員として支えてくれる人以外の人がいなければならぬのではないだろうか。自分の周りに、この人と「共に生きたい」と思ってくれる人がいなければならぬのではないだろうか。

小羊学園のグループホーム

入居者の地域生活を考える実践

地域移行・高齢化が押し寄せる今、そしてこれから

日本の障がい者福祉は障害者権利条約などの世界的な動向も踏まえ、入所施設の定員削減・地域移行の促進が進められています。来年度の制度改正では入所者の地域移行の意向確認が必須になってきます。

小羊学園でも旧生活寮時代から地域で暮らす場を整備して障害者支援施設からの地域移行を進め、現在5ホームで31人の入居者が暮らしています。最初に入居された方はすでに30年の時を経ていてずいぶんな御歳を召しました。入居期間が長くなれば歳を重ねられ、逝去される方や身体機能が低下して医療ケアが必要になり転居される方も増えてきています。こうしたグループホームの実情を報告させていただき、ともに考える機会になれば幸いです。

〔三方原エリア〕

ホームの概要

三方原エリアには温心寮・ひだまり・あゆみ3つのグループホーム（以下、GH）があり、それぞれ男女混合で6名ずつ入居されています。施設からの地域移行の方を含め、全国的にも少ない、重度障がい者も対象としたGHとなっています。入所施設との大きな違いは【在宅そのものである】ということではないでしょうか。ご飯の炊きあがる匂いと共に起床し、焼きあがるウインナーを眺めながら朝食を待つ姿も見られます。

地域生活を支える手立て

GHは選べる社会資源も在宅である故、豊富です。その中でも、各市町村が行う地域生活支援事業の移動支援サービスを利用しています。ヘルパーさんと公共の交通機関を利用して、好きなお店で買い物をし、入浴施設でのんびり過ごす等、余暇の

充実や地域交流に繋がっています。

また、65歳を迎えた際には介護保険認定を受け、地域の同年代の方々と共にデイサービスにて過ごす生活を選択している方もいます。

加齢とともに

さて、入所施設【三方原スクエア】同様、GHも終の住処とはいきませないので、高齢による機能低下が見られた際は次の住まいを探さなければなりません。

先にも触れましたが、介護保険認定を受けることが可能という事は、選択肢が広がるという事です。個々の障がい像と機能低下の状態に合った場所を、障害福祉サービス・介護保険サービスの両方から探していくのです。



ホームイベントの居酒屋温心寮♪

ここ数年でGH入居者の高齢化も顕著で、昨年度は2名の方が、今年度も1名の方が介護保険施設へと転居されています。いずれの方も転居するまでには、時間をかけて、まずはデイサービスへ通うことから始めています。

転居の際は、障がい福祉サービス・介護保険サービス、双方の支援者が協力し合い、お一人お一人の豊かな生活に向けて情報交換を重ねます。

その中でも、その方が生まれてから現在までの人生の物語や、共に歩んできたご家族の想い等もお伝えすることが何よりも大切であり、私たちの大きな役割の一つなのだと感じています。この先も続く豊かな人生を願って・・



週末のメニューをみんなで決めます！

「浜北エリア」

ホームの概要

浜北の平口にある支援センターわかぎの隣接地に浜北のグループホーム(以下GH)ひまわり定員…6名、カトレア…定員7名(短期入所…1床)はあります。

入居者の年代は20代…1名、30代…1名、40代…1名、50代…1名、60代…6名、70代…1名、80代…2名の計13名、男女混合の構成になっています。浜北のGHの最大の特徴は、2棟共に2階建ての一般的な住宅であるという事にあります。1階は、身体的に機能低下が見られる方々が安全に配慮しご利用されています。2階の入居者は、ご自身で自由に1階2階を行き来されておりプライベートな空間を存分に楽しんでおられます。



家庭生活に近いが故の課題

この最大の特徴である2階建てのGHであることが近年において大きな課題となりはじめています。

GHは「家庭用のユニットバス、狭い廊下幅、2階建て」のような生活環境と支援員1名配置という点で、機能低下の見られる入居者の安心安全な生活を提供する事が困難になってくるケースが見られ始めています。年に数回、階段の踏み外しによる転落事故も起きており、時に「ひまわり・カトレア」間のメンバー変更も組み入れながら、1階利用が必要な方を支援者で協議し見直しています。

また、これまでも機能低下が徐々に見られ、GHで生活されながら介護保険を併用し、高齢者サービスをご利用になられていた方もおり、GHでの生活の継続が困難になり高齢施設へ移行された方も数名いらっしゃいます。さらに、大病を患われ入院治療が必要となり、その後GHに戻る事ができず療養施設や病院等へ移行された方もいらっしゃいました。この他に、50代で機能低下が見られGHでの支援が困難となり、入所施設へ移行されたケースもありました。

ご本人の思いを受けとめつつ

GH入居者の年代は先程ご紹介した通り20代〜80代まで生活されてます。その内70才以上の3名の入居者は現在2階で元気にお過ごしになられています。お元気な内から年齢に関係なく、これまでの移行経験を活かしながら、お一人お一人の将来の生活のご希望をお伺いし、今後の生活を組み立てていく事が重要になってきます。このような話し合いを計画的に進めていき、ご本人やご家族、看護や栄養の専門家、地域の相談員やケアマネージャー等と共に、ご本人やご家族が安心できる生活を将来も含めて一緒に考えていけるよう目下準備を進めています。

在宅支援の一助として

浜北のGHでは「カトレア」で短期入所…定員1名をお受入れしています。短期入所のお部屋が2階に位置している為、階段での事故防止、安全配慮の観点により、階段の昇降がご自身で可能なご利用者とさせて頂いております。コロナ禍を過ぎ、GHの利用希望の見学が増加しています。見学時に丁寧なご説明を行います。ご利用に繋げていきたいと思っております。時にご利用者の感想を頂く

機会がありますが、ご本人が「カトレア」の短期入所を『楽しみにしている』というお声を頂く事があります。手前味噌ではありますが日々、丁寧な支援や関りの姿勢がご利用者に伝わっているのだと実感しています。今後も入居・短期入所のご利用者が「安心感・楽しさ・わくわく感」を感じて頂けるような支援を目指していきます。不備な点もあるかと思いますが、今後も、地域のニーズに可能な限り寄り添いながら、お一人お一人の支援に職員一同努めてまいります。





2023 ⇒ 2024



2024年元旦は能登半島地震が発生して辛く悲しい新年になってしまいましたが、小羊学園の各施設では年末年始に楽しい行事がいっぱいありました。その一部を皆さんに紹介しますね！

マルカート

年末はお菓子釣りをしました。年始は自動販売機で飲み物を買って、お正月の話をして盛り上がりました。



デイケアホーム

「はたちの集い 輝く2人」
二十歳を迎えられたお2人をお祝いしました。自分らしさを大切に沢山の幸せな出会いがあるよう祈っています。



オリーブの樹

年末はクリスマス会、忘年会と行事が盛りだくさんで楽しい年納となりました。年明けの行事ではマグロの刺身定食を提供し豪華な給食を楽しみました。

わたぐも

年末は恒例のクリスマス会を開催。年始には福笑いや、書初めをして過ごしました。



能登半島地震 支援活動の報告・今後の活動予定

～被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます～

穏やかな元旦の夕暮れに突如激震に見舞われた能登半島地震。連日の報道で被災地は壊滅的な被害状況にあることがうかがい知れ、小羊学園としても被災地にできることを模索してきました。2月6日時点での支援状況をお伝えします。

- ①静岡DWAT登録員2名が現地支援活動に従事・派遣予定
 - ・1/30-2/3 1名が金沢市の1.5次避難所で活動を実施
 - ・2/16-2/20 1名が志賀町避難所に派遣予定
- ②厚生労働省介護チームとして福祉施設に派遣予定
 - ・2/12-16 三方原スクエア職員2名が穴水町「石川県精育園」に派遣予定
- ③被災施設の入所者の受入れエントリー
 - ・現地被災施設の避難場所として、三方原スクエア・支援センターわかぎ・カトレアが受入れ意向のエントリーを厚労省に報告
- ④はままつna-net支援協力金
 - ・正月明け早々に各施設に被災地義援金および支援活動経費拠出のための募金箱を設置し職員に協力いただき1/22に58,121円をna-net事務局にお渡しした
 - ・今後、災害ボランティアとして現地支援活動の予定



1.5次避難所へDWAT登録員としてテント割業務に従事しました



はままつna-netの募金活動として各施設に募金箱を設置しています

小羊学園のお勧め!

障がいのある人にやさしい外出スポット Vol.12



明治屋醤油株式会社

～100年以上続く、静岡県浜松市の醤油醸造の老舗～

閑静な住宅街が並ぶ細道に現れる大正初期に建てられたお店。店内はお醤油のいい香りがし、風情溢れる空間です！工場見学や醤油絞り体験、味噌仕込み体験等各コースがありお醤油やお味噌について楽しく学ぶことが出来ます♪店頭には、他にも醤油クッキーお煎餅、オリーブの樹の折り染め製品なども並びどれも気になる商品ばかりです。

「なつかしい空間」「タイムスリップしたような空間」にぜひ行ってみたいはいかがですか？

【概要】

[住所] 〒434-0042 静岡県浜松市浜名区小松2276
 [営業時間] 平日 8:00～18:00/ 土曜 9:00～16:30 [定休日] 日曜・祝日
 [お問合せ先] TEL: 053-586-2053 FAX: 053-586-2117
 ※工場見学、醤油絞り体験、味噌仕込み体験等各体験コースは予約が必要です。



KOHITSUJI STAFF



リレートーク

Vol.30

あつみ まさよ
渥美 雅世 さん

2005年入職
小羊デイケアホーム・ばるしあ施設長



Q小羊学園を志した動機は？

海外の障がい者施設でボランティアをしていたとき、利用者の偏見なく寛容で純粋で無邪気な可愛らしい様子に心洗われ、帰国したら地域の施設で働きたいと思い、小羊学園に出会うことができました。

Qこの仕事の嬉しいことは？

利用者の新たな表情や表現に触れ合えた時に幸せを感じ、また、ご家族や職員とその様子を共有し嬉しそうなる表情を垣間見ることです。

Qちょっとプライベートを教えてください！

旅行が好きです。思い立ったら吉日！ひとりで国内外へ旅立ってしまいます。いろいろな場所で人だけでなく景色、動物、お食事もろもろ沢山の出会いを楽しんでいます。

Q誰にリレーしましょうか？ また一言メッセージを！

ばるしあの野中佑華さんへバトンを繋げます。いつも笑顔で子どもたちと楽しそうに遊んでいる姿に安心感を抱いています。

今年もタオルをご寄贈くださいました

～浜松ロータリークラブ～

12月22日に浜松ロータリークラブ様が法人本部にお越しになられ、生活必需品のタオルを寄贈くださいました。会員の皆様にお声をかけて集めてくださったおよそ200枚が中部防災工業株式会社、松坂代表取締役様から稲松理事長に手渡されました。地元の皆様に支えられていることを実感し私たちも地域に貢献したいと思っております。

本当にありがとうございました！



2024年度 新規採用職員 募集要項のご案内

社会福祉法人小羊学園では2024年4月採用の職員を募集しています。障がい福祉に興味のある方、福祉の道を考えている学生の方、お気軽にお問い合わせください。詳しくは法人HPをご確認ください。

○問合せ 法人本部 担当：古橋
☎053-584-1333

法人HP募集要項 QRコード

知っつろ 福祉 生活介護って？

障がい福祉サービスには様々な種別があります。その中で生活介護事業は「常に介護を必要とする利用者に対して、日中活動として障害者支援施設などで、日常生活の介護や支援、創作的活動・生産活動の機会の提供、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を提供するサービス」のことを指します。対象は常に介護を必要とする方になりますので、障害支援区分3以上（50歳以上は区分2以上）の方になります。

あつみがき

昨年12月グランシップにて開催された「愛護ギャラリー展」に実行委員として参加してきました。多くの作品に感動したことを、昨日のように覚えていきます。

展示期間には多くの方が作品を観に来られました。作品を観られた方々はきっと、私と同様に感動や気づき、きっかけなどを頂いたことと思います。

このように、作品を通して何かを与えることができることは、素敵な社会参加の一つだと改めて感じました。

アート最高♪

(Y)

小羊学園を支える会

2023年度 寄付金報告

12月～1月分	1,975,000円 (115件)
累計	5,673,764円 (281件)

多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行	〇八九店 当座預金0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337